

第8回 1年を振り返って

1. 設問

これまで、ユース特命報告員として、意見報告をお願いしてきました。振り返ってみて、よかったところやよくなかったところ、〇〇に関心を持つようになった、〇〇のテーマで意見が言いたくなった、〇〇に関与してみたくなったなど、青少年目安箱について、あなたが感じたことを教えてください。

2. 設問の狙い

今年度実施してきた青少年目安箱事業について、1年間にわたり同事業に参加してきた報告員が、実際に感じたこと、考えていること等を把握し、今後の子ども・若者の意見聴取方法の検討の参考とするため、課題を設定した。

3. 意見回収期間

平成23年2月25日～3月11日

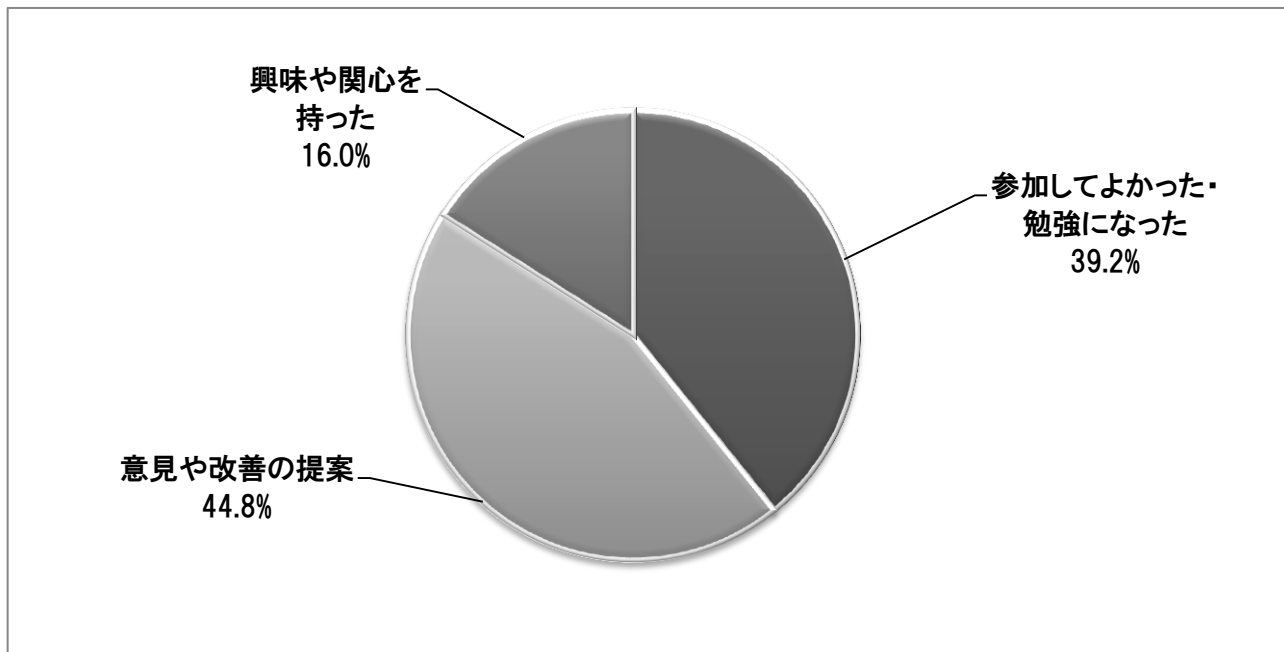
4. 意見提出者数

127名（提出率42.3%）

5. 提出された主な意見

- ・今まで興味がなかった国の取組等を知ることができたので、報告員として参加できて良かったとの意見が多い。
- ・提出した意見がどのように活用されたか、他の報告員がどのような報告をしたかなど結果の公表を求める意見がある。
- ・字数制限を緩めて欲しいとの意見がある。
- ・設問や説明資料が難しすぎるとの意見がある。

6. 問1の意見分析



意見	集計
参加してよかった・勉強になった	49
意見や改善の提案	56
興味や関心を持った	20
合計	125

【提出された主な意見の要旨】

■参加してよかった・勉強になった

- ・テーマが難しかった時も沢山あったが、自分なりの意見を考えてまとめ表現する文章力の勉強ができた事が良かった（中学生・男性・12才）
- ・社会のいろんな問題について考える機会が生まれたので、とても良かった（中学生・男性・13才）
- ・毎回テーマを与えてもらったので、そのことを考える事ができた（中学生・男性・14才）
- ・このユース特命報告員になった事で、政治や物事についてよく考える事、それを考える力がついた。（中学生・女性・13才）
- ・自分が住んでいる日本について、深く考える事ができて良かった（中学生・女性・13才）
- ・この機会に家や学校で深く考えてこなかった事等を考えるきっかけになった（中学生・女性・13才）
- ・的はずれな意見もあったと思うが、これから、もっと色々なことを勉強して、将来、社会に貢献できるような人になりたい（中学生・女性・14才）
- ・今までより沢山の事に興味を持ち、沢山の事を調べたので自分の世界が広がった（中

学生・女性・14才)

- ・これまでの報告を通して、僕はいつもニュースをみると自分だったらどうするか、また自分の意見を毎回持つように心がけるようになった（高校生・男性・15才）
- ・少しでも様々な取組の参考になったと思う、なんだか社会に貢献しているのかなと嬉しく思えた（高校生・女性・17才）
- ・提示された資料や内閣・行政機関のホームページ等を閲覧する機会が増え、国家機関をより身近なものとして考えることができるようになった（高校生・女性・17才）
- ・もしも私の意見報告が、これからの青少年に対する施策に対して少しでも貢献できるのなら、一人の国民として、こんなに嬉しい事はない（大学生・男性・20才）
- ・行政が行っている事に対する理解が深まった（大学生・女性・19才）
- ・国の役割について考えるきっかけになった（大学生・女性・22才）
- ・その都度自分で調べたりする事も勉強になって良い体験だった（専門学校生・女性・19才）
- ・少なくとも、この会の方は、これから先の日本の教育を熱心に考えている事が多く、私も負けていられないと思った（正規職員・男性・28才）
- ・意見が主張できる場が持てて、自分の考えを整理する事ができた（正規職員・男性・28才）
- ・まず目に触れる機会のない国の方針に関する資料が課題に添付されていたため、目を通したり意見を作ったりする事で知識の幅が広がるとともに、国の政策の一部がどのようなものであるのかが分かり勉強になった（正規職員・女性・24才）
- ・今まで考えた事もなかった様々なテーマと向き合うことで、以前に比べて知識の幅が広がったように感じる（正規職員・女性・25才）
- ・普段会社員として働いているうちは、会社の利益にとらわれ、国の方針としてマクロな利益の考え方まで理解できない面が大きい中で、特命報告員としての活動でマクロな利益、しかも多様な政策の面から考えることができるようになった（正規職員・女性・26才）
- ・無名の間でも僅かながら国の政策に携わることができたことは、大変嬉しい（アルバイト・男性・27才）
- ・ユース特命報告員に参加でき、これまで考えもしなかった事を考え、様々な資料を目にする機会となり、自身の為にもなったのは有り難く思う（無業者・男性・28才）

■意見や改善の提案

- ・資料等としてあげられているものが、読みにくかったり解りにくいところがあったりした（中学生・女性・14才）
- ・せっかく集めた意見なのだから、しっかりと使用するべき（高校生・男性・17才）
- ・定期的にメールが来るようにしてほしい（高校生・男性・17才）
- ・もっと具体的な問いかけをして欲しかった（高校生・女性・15才）
- ・資料が難しく、あまり参考にならなかった（高校生・女性・16才）
- ・今後は、政策コンテストのような予算の使い道や新しいアイデアを募る場としても使って欲しいし、その場合は、予め決められた人だけでなく誰でも提言できるようにしてほしい（大学生・男性・19才）

- ・意見についてネット上で討論できるようなシステムが組みれていると、報告員の側としてはかなり充実した制度になるのかなと感じた（大学生・男性・21才）
- ・できるならばもう少し制限文字数が多いと肉付けがしやすく内容もわかりやすいものにしやすい（大学生・男性・23才）
- ・もう少し幅広い分野の人々から意見を集めると良い（大学生・女性・20才）
- ・単に「集計して公表します」ではなく、活用されている実感が伴えば、報告のやり甲斐を感じるし、報告員はより一層深く真剣に考えるようになると思う（大学生・女性・22才）
- ・審議会の資料のように各回の集計結果を投稿者も知ることができると良い（専門学校生・男性・27才）
- ・全体的に「したほうが良いか」という画一的な質問が多かったのは気になった（専門学校生・男性・25才）
- ・可能であるならば、他の報告員の報告内容を閲覧したり、またそれにコメントする機能があればより良い（正規職員・男性・26才）
- ・課題の配信が一定の期間ではなかったのも、忘れやすい（正規職員・女性・23才）
- ・全体として回答の的を絞った具体的な意見募集であるので、具体的事例の回答だけでなく、課題に対して広い視野や少し別の視点で回答できれば良かった（正規職員・女性・26才）
- ・個々のテーマが具体的すぎて、関連施策を自ら調べ、興味を持って意見できるようなものでは無かった（正規職員・女性・28才）
- ・今後も、有識者会議だけにとどまらず、このような民間からの意見の吸い上げも同時に行っていくと良い（自営業・男性・25才）
- ・できるだけ易しい質問をして、「書きたい！言いたい！」と思わせるように仕向けるのが一番（自営業・男性・28才）
- ・募集から採用の通知、そしてテーマ配信までの待ち時間が長く、それに伴う説明も遅れていた事と、4回から5回目のテーマ配信に2カ月以上の待ち時間がある間に待ちくたびれてしまった（派遣社員・男性・25才）
- ・テーマはいずれも今後に欠かせないキーワードでよかったと思うが、国の施策そのものが時代に追いついていない感が否めない（アルバイト・男性・25才）
- ・テーマに関する議員等の講演会があるなら報告員枠として会場の席を少し押さえて参加とか出来たりすると、もうちょっと考えが深くなり、よりよい報告になったりもする（家業従事・男性・27才）
- ・意見がどの程度まで届いているのかわからない（家事従事・女性・29才）

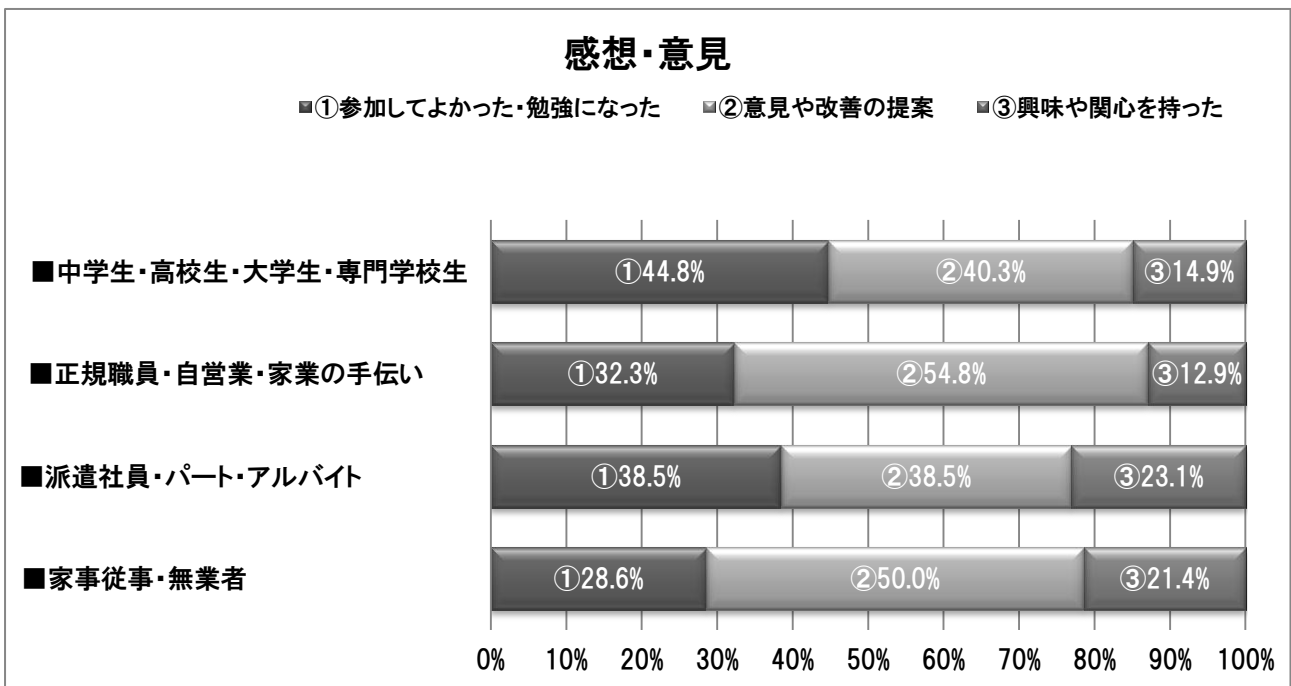
■興味や関心を持った

- ・今回のユース特命報告員を通して、世の中のニュースに興味をもつ事ができた（中学生・男性・12才）
- ・今まで関心を持たなかった司法や政府の政策、金融関係にも関心を持つようになった（中学生・男性・14才）
- ・今まで、ひたすら受身で国のことについて、あまり考えず興味も持たなかったが、ユース特命報告員をやったからは、テレビでやっている政治に関するニュース等を

見るようになり、日本って今こういう状況なのか！と、思ったりして国について少し興味を持つようになった（中学生・女性・15才）

- ・これからの日本で必要な子育てや教育について、関心を持ち、意見を言いたくなった（高校生・男性・16才）
- ・普段内閣府で議論されることの一部を知ることができて面白かった（大学生・女性・19才）
- ・あまり関心がなかったような分野、例えば、金融や朝食の事についても、目を向けるようになった（専門学校生・女性・23才）
- ・政治やこの国で起こっている事件等によく関心を持つようになった（アルバイト・女性・22才）

【属性別グラフ】



	①参加してよかった・勉強になった	②意見や改善の提案	③興味や関心を持った	合計
■中学生・高校生・大学生・専門学校生	30	27	10	67
■正規職員・自営業・家業の手伝い	10	17	4	31
■派遣社員・パート・アルバイト	5	5	3	13
■家事従事・無業者	4	7	3	14